

## 心の力・・・

ここに奇妙な統計結果があります。

それは例えば、糖尿病の専門医のほとんどはなんと、その糖尿病になつてしまうというものです。またガンの専門医はガンになりやすいといひます。これはどういう事なのでしょう？  
うか？なんと、人間のイメージから作り出してしまったという事なので、す。にわかには信じ難いこの結果はどうやら本当のようです。ガンの専門医なんか、どれだけのガンを見ている事でしょうか？そのイメージから受ける影響力というのは、もの凄くあると思うのです。あの様になるまいと思つても、おそらく無駄です。たぶんイメージは術語に関係なく成立するのでしょうか。

免疫力を高めるのにまず大事なものはプラス思考、明るい考え方だと言われます。不安の闇に閉じこもつていたり、自責の念にかられている限り、免疫力が押しつぶされてしまふ。希望を持ち、ある意味、お任せの気持ちでいることです。他力本願とは意味が違います、生かされている事を噛み締めるのです。全てを委ねだねきる、任せきると一番良いことが計られると、私の経験上感じております。

任せきる、生かされているとは言つても、そこに自分の思いの強さが関係してきます。その思いの強さとはどういう事でしょうか？実は、我々の心はその波長に合ったものを引き寄せる様にうまくできています。怖れは怖れを、不安は不安を、怒りは怒りを、引きつける。人はねたみ恨む心をおごり慢心する心は、それにふさわしい事象を引き寄せる。逆もまた真なりで、常に心を善意に満たしている人は善意を引き寄せ、人に親切にしている人には親切が、感謝している人には感謝が返ってくる。これを『因果の道理』と言います。

仏教では人間の心を十段階に分けています。下から地獄（幸福を感じる）とのできない世界）・餓鬼（欲望の世界）・畜生（倫理のない世界）・修羅（闘争を好む弱肉強食の世界）・人間（精神的なものを求めるが、まだ物欲の強い世界）・天上（人間以上に精神的なものを求めるが、油断すると地獄へ落ちる世界）・声聞（いい人の話を聞いて悟りに近づこうとする世界）・縁悟（何かの機縁で自分から悟る世界）・菩薩（自分が悟り、人をよくしていこうとする世界）、そして「仏」の十段階である。

この十段階の世界は別々に存在しているわけではありません。我々ひとり一人の心の中に存在します。「心コロコロ」と言うように、つまり人間には、色々な心の動きがあるということなのだ

であります。そして我々は、その心の状態に合わせた人生を生きることにあります。心を調べ、高めなければいけない理由がここにあります。

目に見える物ばかりを崇拜する物欲主義が蔓延した現代のような世界には、今こそ精神世界を見直す様な光を当てなければいけません。眼に見えるものよりも、目に見えないものの方が実は大事だということを再認識しなければいけません。例えばです。皆さん、ちよつと自分の身の周りを見渡してみてください。我々を取り巻く環境は、スイッチ一つで何でも動きだし、快適にしてくれている電気製品に囲まれている事と思ひます。その電気製品が動いていることは目に見えて分かりません。しかし、その電気製品を動かしている大元、つまり電流は目に見えて確認することはできません。植物だって同じです。あの山の木も、地面の中でシツカリと根っこを構えているからこそ暴風にも耐え忍ぶだけの強さを持つています。我々人間だって、目に見えない酸素を吸収しているからこそ、命を保つております。その様に、目に見えないものの存在があつてこそ目に見えるものが安心して活躍する事ができるのです。目に見えない存在の大きさを知つて頂けた事と思ひます。話を戻します……

現代は物が豊かになつたから悪くなつていったのでは決してありません。

幸不幸を判断するのは人の心であつて、物やその多少が幸不幸を決するのではないのです。人類がもつと精神文明を要求し、先哲の教えを学び、物以外に幸福感を感じられる人間を増やさなければならぬ理由はそこにあると思ひます。

心の力というのは我々人間が思つていゝ以上に強いものなのです。心と体が一つになつてはじめて生命は光り輝くのです。

現代のような膠着（こうちやく）状態に新鮮な風を吹き入れ、風通しをよくする為には、今こそ皆様一人一人の足元を照らし出してくれる仏教に、原点復帰しなければいけない時代が来ていると確信しています。

どうぞ、皆様おひとり、おひとりが信じた職業、または人生の足元に光を当て直し、生かされていることを、自らの心の強さで実感して頂ければ幸いに存じます。 合掌

副住職 谷川 寛敬

